

# 農作業特報

令和4年7月22日

魚津市  
魚津市農業技術者協議会

本年は、気温が高めに推移しているため、「コシヒカリ」の出穂期は、平年より5日程度早く、高温登熟、斑点米カメムシ類による品質低下が懸念されます。以下の点に留意し、高品質・良食味米に仕上げましょう。

## 1 コシヒカリの葉色に注意 …淡いほ場は、追肥（追加穂肥）

出穂が早く、高温登熟が予想されます。

出穂前の葉色を確認し、淡い場合は、追加穂肥を施用し、しっかり養分を供給する。

### 【追加穂肥の目安】

出穂10～7日前(7/19～22)に  
葉色が4.2未満(壤土は4.0未満)



出穂3日前(7/26頃)まで  
追肥3号 5～7 kg/10a

## 2 斑点米対策の徹底 本年もカメムシが多い状況です。

高温年は、1)出穂がバラつき、2)斑点米カメムシ類が多発するため、斑点米被害が多発します。

- ・ ほ場ごとの出穂状況に応じ、適期に防除する。
- ・ 畦畔や雑草地の除草管理は、本田防除の前に終える（雑草が繁茂している場合は雑草にも薬剤がかかるように散布する）。
- ・ 散布時期の間隔は7日間を目安とします。（10日以上あけない）

【防除時期の基本】 注)散布農薬は、前回の管理情報を参照願います

- 1 回目：穂揃期…ほ場全体の穂が8割～9割、出穂した頃
- 2 回目：傾穂期…穂揃期から1週間経過した頃
- 3 回目：早生は必須、中生は多発時\*…2回目防除から1週間経過した頃  
※カメムシが多発時は、再度、お知らせします

## 3 出穂後の水管理

本年は、高温傾向のため、湯水が懸念されます。

用水は限りある資源です。有効利用にご協力ください。

- 水尻はしっかり止める。
- 畦畔から漏水がないか点検する。
- かけ流しはしない。

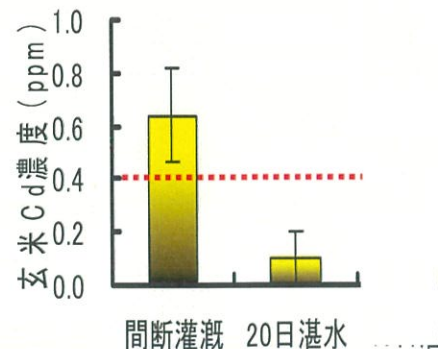


図 水稲の出穂後の水管理と玄米中のカドミウム濃度 産米流通対策地域の県有施設ほ場試験結果(農研コシヒカリ)

稲の活力維持と品質向上、カドミウム吸収抑制のため、出穂期から20日間は田面が出ないように、『湛水管理』を徹底しましょう。

### 【湛水方法】

- ・ 水深3cm程度に湛水し、田面が露出する前に再度入水する。
- ・ 水持ちが良くても1週間に1回は、新しい水を入水する。
- ・ 20日間を過ぎたら収穫の1週間前まで『間断かん水』を続ける。  
(フェーン予報時はあらかじめ湛水する)